青少年育成センターだより

第７８号　２０１９．１１．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

「金色の　ちひさき鳥の　かたちして　銀杏ちるなり　夕日の岡に」
（黄色く色づいたいちょうの葉が、まるで金色の小鳥のような形をして散っています。秋の夕日に照らされている岡のうえで　　与謝野晶子）

秋もどんどん深まっています。紅葉狩りをされたでしょうか。冬の訪れもあとわずか。冬の準備が必要かも・・・。

人の役に立つこと

・・・見てごらん。お湯を自分の方にかき寄せようとすればするほど、お湯はクルッと回転してあちらに行ってしまうだろう？反対に、相手の方に温かいお湯をあげようと、一生懸命あちらに向けて流してあげると、そのお湯はあちらにぶつかって、逆流して、こちらに返ってくる。わかるかい？モノでもおカネでも、自分が欲しい、もっと欲しいと思ってその後を追いかけ、自分の方に引き寄せようとすると、逃げていってしまう。逆に、相手を優先し、人のために使い、施しをすると、求めなくとも、自然に返ってくる。自分が幸せになりたければ、人のためにいいことをすることが大切なんだよ。・・・

（PHP713 号）

作者が、お父さんと一緒にふろに入っているときに、聞いた話として紹介されていました。とても良い話ですね。

お父さんが「相手を優先し、人のために使い、施しをすると、求めなくとも、自然に返ってくる。自分が幸せになりたければ、人のためにいいことをすることが大切なんだよ」と語りかけています。自分のことよりも他の人のことを優先することの大切さを子どもに伝えようとしているのです。

みなさんは、**「自利」「利他」**という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。これは仏教用語で、「自利」は、自らを利すること“自分のためにすること”、「利他」は、他人を利すること“人のためにすること”をいいます。

「三方良し」という言葉があります。近江商人の経営理念とされる言葉です。「売手良し、買手良し、世間良し」のことで、近江商人は、「売手の収益」「買手の満足」「地域社会への貢献」の三つを重視しました。これは、まさに「自利」と「利他」の両方を考えた経営なのです。反対に、売手が業績のことだけを考えて、買う人のことを考えないで売りつけるとすればこの行為は、「自利」だけであって、「利他」はないのです。最近のニュースで、安全ではない商品を売ったり、虚偽の説明をして商品を売る等、買手のことは考えずに自分の会社が儲かれば良いと会社の利益だけのことを考えて販売し、その結果、事故が起きたり、健康被害が出たということを聞きます。これはまさに「利他」のない商売です。昔から、日本人の心の中には「惻隠の情」「誠実」「思いやり」の精神があります。会社もこの精神で運営すれば業績も伸びていくことでしょう。そうでない会社は衰退していくしかないのではないでしょうか。

私たちが生活している職場や学校、地域社会での人間関係も「利他」の気持ちをもって接することが大切です。隣の人が困っていたら手を差し伸べる、それにより、隣の人に笑顔が戻る。その笑顔を見て自分の喜びを感じることができる人になりたいものです。そんな子どもに育てることは、親の責任なのではないでしょうか。

（文責＝青少年育成センター指導員　藤村）